

「世界の中の私たち」教材ガイド

本教材の趣旨

本教材は、日本語を母語としない学習者にも学びやすい教材を目指して作成されました。社会科「公共」領域のいくつかのトピックについて、日本語を母語としない学習者が「読んでわかる」教材となることを目指して作成されています。

そのため本教材では「**やさしくざっくり**」を心掛けました。記述に際しては論理構造を明確化・簡素化し、表現においては複文を避けた平明な日本語を基本とし、適宜、ふりがなや英語も交えています。

学校現場での使用方法としては、**授業の予習復習として**本教材を使うことができます。また、本教材を**他言語に翻訳して**使用することもできます。単文表現で構成されていますので、Google 翻訳や DeepL などの機械翻訳サイトでも、翻訳がなされやすいかと思われます。また、各ユニットの末尾には**英語での全訳**を付していますので、英語でのアクセスのほうが容易な場合には、末尾の英訳版をお使いください。

各教材の構成ですが、教材の冒頭で「**本日のテーマ**」「**キーワード**」を提示し、本文は**一問一答形式**によって記述されています。最後部には、学習内容のまとめとして、また、自身の考えを表現するものとして、「**記述コーナー**」を設けてあります。本教材は「やさしくざっくり」を旨としておりますので、本教材で扱われていない内容については、適宜、授業の中で取り上げて頂ければ幸いです。

本教材の内容

本教材では、近代社会を支える**法と人権にかかわる内容**に焦点をあてます。扱われている具体的なテーマは以下の通りです。本教材では、**人類と移動の歴史**から説き起こしています。その後は、**日本国憲法**を軸として、その成立や原理について記述し、その後は**平等権、社会権、自由権などの権利**について、**日本の具体的な課題**にも触れながら説明しています。**外国籍の人の権利**については、第9回において、**学ぶ権利や参政権**などの事例に触れながら、具体的な議論を紹介しています。第11回では**人権の再定義**と題して、人権の実体化の歴史について説明しています。ここでは、人権概念には常に語り落されるものがあり、問題提起がされながらより広範な人権概念へと訂正されてきた歴史を紹介しています。また、第10回「外国籍の人の権利について考えよう」においては、外国籍の人々が直面している事象を取り上げています。ぜひ、議論にご活用いただければ幸いです。

「世界の中の私たち」

- 第1回 人類と移動の歴史
- 第2回 市民革命と基本的人権
- 第3回 日本国憲法の成立がわかる
- 第4回 日本国憲法の原則がわかる
- 第5回 平等権と日本の課題がわかる
- 第6回 自由権がわかる
- 第7回 社会権がわかる
- 第8回 外国籍の人の権利がわかる
- 第9回 外国籍の人の権利について考えよう
- 第10回 人権の再定義がわかる